

財政分析は、まちづくりの基本学習！

「舞鶴市財政分析勉強会」を開催

まいづる市民自治研究所（まい研）

平岡和久教授（立命館大学政策科学部）が講演

まい研（まいづる市民自治研究所）では、8月6日（土）に京都府舞鶴市の西駅交流センターにて、平岡先生（立命館大学政策科学部教授・まい研応援会員）をお招きして財政分析勉強会を開催しました。

第1部として、2022年舞鶴市財政分析改訂版のたたき台の説明、平岡先生から「コロナ禍と地方財政：2020年度決算を中心として」と題して講演、平岡先生への質疑応答、その後第2部として、改定版のたたき台の議論を行いました。

平岡先生の講演では、コロナ禍での問題の所在として、社会保障、地方経費抑制政策の中での防災対策問題、惨事便乗対応の問題、災害と格差・貧困の拡大問題、さらにウクライナ危機を機に防衛費の拡大に傾斜などを語られ、新型コロナ予算から見た財政の課題も述べられました。

質疑応答では、コロナ禍で多額の予算が使われているが、社会保障や地方経費の抑制として、その反動が来るのではないかと。また、国と地方で1000兆円を超える借金があるが大丈夫なのか、など質問が出されました。

「建設地方債の発行が悪い訳ではない」「行財政的には財務省と総務省は緊縮予算に入っているが、政治的には選挙対策がある」「法人税と所得税の再編、大企業の内部留保を再配分することでしか出口はないのではないかと」などと議論されました。

改訂版のコラムは、市財政と市民生活の視点から「国の補助金」「図書館」「観光」「文庫山」「インボイス」の5本立てを予定し、その内容も議論しました。（阿部正巳）

関連記事リンク [研究会の紹介](#) [地域金融機関と信用金庫の役割](#) (2021年5月7日 up)